

発行所 横浜市神奈川区
沢渡4の2

神奈川県社会福祉
協議会保育分会
神奈川県保育会

発行人 安部龍巖

題字 故内山岩太郎筆

保育かながわ

保母の日を祝って

神奈川県保育会々長

安部龍巖

第二回「保母の日」おめでとう
ございます。

県知事の深い御理解をいただき昭和四十年に制定された「保母賞」制度の意義を更に充実発展させ、保母の勤労意欲の高揚と社会的地位の向上をはかり、更に保育の重要性について、広く県民の理解と認識を高めるために、私共保育関係者が、長年の願望であった「保母の日」を全国にさきがけて制定され、今年第二回の「神奈川県保母の日」を、十二月二日(土)にむかえることになりました。

第二回「神奈川県保母の日」を

むかえるに当り私共保育者が、保育の前進をはかるために、それぞれの施設を中心に、保育会の組織をまます固

め、施設長と

しての責任あ

る運営、保母

として幼な子

をはぐくむ、

つちかう、み

ちびくことを

誇りとし喜び

として、保育

者が、愛と誠

の大きな結び

あいを強めて、

この「保育の

日」を喜び、

すべてに、ゆ

きとどいた保

育ができるよ

うに反省しつ

つ、より御精進下さることを念願して、お祝いのごあいさつといた



神奈川県保母会長

眞喜志通子

「第二回神奈川県保母の日」おめでとうございます。

第一回目の記念式典には大多数の参加者が会場をうめつくし関係各位はもとより保母達も感慨一しおの思いがいたしました。

私共保育の道に携わり日々より充実した保育をと願いながら地域住民あるいは保護者の方々の高い信頼と深い理解と協力を得ることの難しさがともすれば様々な不信感につながるがあります。

この「保母の日」をより意味深い日にするために私共保母達が一丸となって自らその責を担う覚悟でございます。何卒よろしくご指導ご協力賜りますようお願い申し上げます。今年各市町村におきましてもそれに関連した行事が展開されると聞きます。回を重ねる毎により多くの人達がその意義と趣旨を認識され、又保母一人一人が専門職たるにふさわしい研鑽を怠ることなく広い意味での「保育の日」を定着させてゆきたいと考えます。「保母の日」あるいはそれに関連した行事の運営にご配慮を惜しまぬ関係諸先生方に心からの敬意を表します。

おめでとう
ございます

昭和五十三年度第十四回
神奈川県保母賞受賞者

川崎市

龍巖寺保育園
粕賀 君子

横浜市

総持寺保育園
岸田 ヨシ江

鎌倉市

稲瀬川保育園
新妻 征子

小田原市

五百羅漢保育園
日高 京子

横浜市

白百合ベビーホーム
松尾 次子

横浜市

神ノ木保育園
米川 シマ

横浜市

ひばりが丘学園
渡辺 さよ

神奈川県

保母の日のつどい

—プログラム—

○保母の日記念式典
主催者あいさつ

神奈川県副知事
保母の日運営委員長

○保母賞贈呈式
保母賞贈呈

来賓祝辞
受賞者代表あいさつ

花束贈呈
○保母の日ポスター入選表彰式
○アトラクション（音楽のおくりもの）

第一部オーケストラのひびき
楽しい曲・美しい曲

「軽騎兵」序曲ほか
演奏神奈川フィルハーモニー

管弦楽団
指揮 古藤 寛

お話し
京浜女子大学講師三縄公一

第二部みんなで一緒に
歌いましょう

あの歌・この歌・みんなの歌
「メダカの学校」ほか

歌とお話し
京浜女子大学中・高等部

音楽主任 八木文字
編曲 西山淑子

第22回全国保育研究大会
和歌山市で開催 成果あがる

十一月二日から四日までの三日

間、和歌山市で開催された、第二十二回全国保育研究大会は、出席者二千二百五十名という、空前の大参加者で、会場はぎっしりうすまり、開会式は盛りあがりました。

神奈川県下の、園長、保母の出席者は四十名でした。

分科会では、「障害児の受け入れ方」とか、「措置基準の抜本的改正」などの問題が討議され、身分法については、「関心の高い地域も低い地域もあるが、自分達の問題だから、頑張つて研究しよう」など、終始熱のこもつた討論が、くりかえされました。

次に、最終日に採択された宣言文の全文を掲載します。

大会宣言

若の浦に潮満ち来れば
渇を無み

葦辺をさして
鶴鳴き渡る

山部赤人をはじめ、数多くの詠み人が残した万葉の歌や、紀ノ川にみられるように、風

光明眉なる紀州和歌山において、第二十二回全国保育研究大会を開催しました。

私たちは、万葉の歌に古代の心を知るとともに、大会においては、保育所にとって原点ともいふべき「地域社会の保育ニーズの現状と保育所のあり方をさぐる」を主題に、三日間にわたり研究協議をかねました。

そして公立保育所の果すべき役割、私立保育所の果すべき役割を十分に討議するとともに、現在当面している園長や保母の資格問題について、永年にわたる研究の積みあげのうえにたつて、その方向を見定めるために掘り下げた討論をしました。

また保育内容についても、子どもたちの生活の実態をふまえてどのような保育を行うことが大事であるかを見きわめるため、数多くの実践例をもとに討論し、保育内容の充実をはかるためには、最低基準の改善が急務であることを確認いたしました。

私たちが参加者一同は、これらひとつひとつの提案や実践例に学びつつ、現在のおそび場もない生活環境や不況の中で、数多くの生活のひずみをうけている子どもたちの実態を直視し、こんにち児童福祉に携わるものの責任と義務を自覚して、子どもたちの健全な成長をはかるため、よりいっそう保育内容の充実と児童福祉の向上のために努力しあうことを約束しました。

明年は国際児童年です。

私たちは、子どもたちの人権をまもり、より豊かな成長発達を願つて努力してきたことを、世界的にほこることができるよう、この和歌山大会の成果をふまえ、あすからの保育に精進努力しあうとともに、永年の悲願である保育者の免許法が実現するよう、全国保育協議会のもとに結果して、幅広い運動を展開していくことを、ここに誓います。

右宣言します。

昭和五十三年十一月四日
第二十二回
全国保育研究大会

保育者へのぞむ

小田原女子短期大学長 関 重 広

欧米の家庭では、子供のしつけはどの家でも大体きまっておき、相当きびしい。中流以上の家庭には、ナースとかベビーシッターなどと呼ばれて子供の世話をする女の人がいる例が多い。これは夫妻そろって夜間外出することが多いためであろう。

この人たちでも、しつけを怠ったり、甘やかしたりすれば、忽ち失職させられてしまう。

ところが、日本では家々によってしつけがちがう。他人の子供が花をとつたりするの注意すると、余計な世話はやかないでくれ、と親が憤こつたりすることもある。

このようなわけで、保育者の方々も園児の取扱いは、なかなか苦勞が多いと思うが、そこはやはり園の方針に従って、家庭に遠慮せず、きびしいしつけを貫ぬいて欲しい。それが子供のためなのだから。昔から「三ツ児の魂百まで」と云われている通り、子供が将来どんな人間になるかは、幼時の教育如何によるのが大きい。従って、将来の社会に立派な人を送りこむ責任は、大学の教授なんかより自分たちの方が余程重いとい

いう自覚と誇りを持つてほしい。実は僕は幼稚園の園長をしているので、特に以上のような気持ちが強いのであるが、僕はまた保育者を養成する幼児教育科を持った女子短大をあくまでも持っているの、その立場からも一つ皆様にお願ひすることがある。

それは、毎年多数お願ひしている校外実習生のことであるが、これらの学生の実習ぶりについてのご批判を毎回承わって、反省の資料としている。

わが校は、初代の井上秀子学長から、木村篤太郎、石垣綾子とついで現在僕が学長を引き受けているが、この間一貫して変らない教育方針は「学問よりも、情操豊かな人間形成」ということで、そのためもあるが、実習生については毎回おほめのことを頂いて大変喜んでいて、時々思ひもよらぬご不満をいただくことがある。

われわれは、実習生が出る前に、保育園その他の皆様に決して迷惑をかけないよう、いろいろと細かく念入りに注意するのであるが、それでもわれわれの気の付かない

ようなことがあることを知り、いっそう気を付けるようにしている。それと同時に、皆様の方でもどうか遠慮なくしかつていただきたい。実習ということは、学校で学べない幼児その他の教育を実地に勉強するためであるから、皆様もどうか教育者という立場でご指導願ひたい。

思いもよらぬ例ではこんなこともあった。これはもう十数年前のことであるが、僕がある保育園を訪ねた時、偶然僕の学校からの実習生が玄関にいたので、

「園長にお目にか、りたいが、今おられますか？」
と聞くと、その学生は、ちよつとおまち下さい。と云つて中に入り、やがて出て来て、

「園長先生はいらっしゃいます。」

「どうかお入り下さい。」

と僕を導き入れ、やがて、

「二、が園長先生のお部屋です。」

と扉をあけて入れてくれた。

そこで僕は園長としばらく用談したが、帰りぎわに、当の実習生を呼んで、

「先程君は、園長先生はいらっしゃいます。とか、園長先生のお部屋だとか、盛んに敬語を使ったが、園内では園長には敬意を払わなければいけないが、来客に対しては園長は身内の方だから、園長はお

ります。とか、こゝが園長室です。とかいう風にしないといけないよ。電話での応答もよく注意しないとイケない。園内のしつけを疑われるからね。」

と云つて帰つた。

そこで、このあとと学校で、一部の学生を集めて、

「君たちは、ご両親のことを他人に話すのに、私のお父さんとか、お母さんと云うか？」

と聞いてみたら、そうです。という学生が数名いた。これには驚ろいたが、そこで、

「小学生か中学生位までならそれでよいが、大学生が他人に向つてうちのお母さんなんて云うのはおかしいよ。そういうことは高等学校で教わらなかつたの？」

と聞くと、教わりませんと云う。

これでは、前記のように、園内の人のことを他人に話すのに敬語

を使つたのも無理ないな、と思つたので、それから、僕は学長の特

別講義として、敬語の使い方を毎年教えることにして来た。

しかし、まだこんな実習生もいるかも知れない。ついっかかりしてそう云うこともあろうが、こんなことも、もしあつたらご注意ね

がたい。

それと共に、どんなことでも、実習生についてお気付きの点があ

つたら、ご遠慮なく御報告下さい。当校はそれを反省の資料として、今後いっそうよき実習生を皆様の園におねがひしたいと思つていま

す。

以上長々といろいろ申述べたが、終りにのぞみ、一言申し上げたいことは、小学校への準備教育、それも算数とか、読み書きをどの程度教えるべきかという問題である。

僕の幼稚園では、こういう準備教育は殆んどしないので、小学一年生の時には余り成績はあがらないらしいが、あとは尻上りによくなつて行くので、今だに方針は変えていない。しかし、この問題は重要であると共で大変むづかしいので、保育に当る方々は、真剣に研究に取りくんではほしい。そして

どの程度にしたらよいかという結論がでたら、それを尊重して、あくまで守つて保育に当つて頂きたい。たとえいわゆる教育ママがいろいろ注文を申し出ても、そういうことに振りまわされないで、園の方針を堅持して行かれることを期待して僕の希望を終えること、

する。

一灯をもちよろう



一灯をもちよろう

「保育まつり」の実施にあたって

神奈川県保育会長
安部 龍 巖

神奈川県保育会では、ながいあいだ、保育施設従事者、保護者が一丸となった「保育まつり」の実施について検討しておりましたが、第二回「保育の日」を迎えるのを機に、保育分科会と協調して、「保育まつり」の実施にふみきることにいたしました。

「保育まつり」は、「保育の日」を中心として、施設長、保母、その他の従事者、保護者が、手を携えて研修し、喜びあい、楽しみあいながら、保育の重要性を、地域社会に浸透させてゆくお祭りになりたいと思っておりますが、さしあたって今年には、保育所の果している社会的役割りを広く県民に訴えると共に、保育関係者相互の連帯感を高め、更に、

- 一、最低基準の改訂
 - 一、保育者の身分の確立
 - 一、措置費の改善
 - 一、障害児保育費の改善
- 等の問題について、研修し、要

求を推進する。

又、各市町村単位で「保育の日」行事もしくは「保育まつり」行事の実施。「保母のつどい」、施設長研修会等を行います。

特に「保母のつどい」は、保育会が、あまりやらなかった、日頃

保母のつどい

今年第一回の「保育まつり」が開かれるのを機に、日頃めだたない地味な仕事に情熱をもやして打ち込んでいた保母達の労苦をねぎらい、明日への活力の糧とさせた

い。との考えから、「保育まつり」を祝う保母のつどい」を開催することにいたしました。

当初は、「保母の日」の前夜祭をと考えましたが、どうしても会場が得られず、やむを得ず、十二月八日にいたしました。なお、保母のつどい」の経費は、保育会の努力によって、篤志家多数の協力を得て実現するのはこびとなりました。ことを申し添えます。

★主旨 保母の日頃の労苦をねぎらい、明日への活力の糧とするために、保母にレクリエーションの場を提供する。

★名称 保育まつりを祝う「保母のつどい」

★申込み(一)〆切り十一月末日
(二)現金を添えて、施設長名で保育会事務局へ申込んでください。
(三)予定数以上は、お断りすることがありますので、早めに申し込んでください。

陽の当たらない地味な仕事に打ち込んでいる保母達をねぎらい、慰めとやすらぎを支えて、明日の活力とする、稔りある会にしたいと思っております。参加費、勤務の差額等、御援助御協力をいただければ幸いです。

★会費 千円
★内容(一)立食パーティ
料理や飲物が沢山用意されています。シャンペンで乾杯!!
(二)お土産(福引き)
電気製品、一千万円?の夢など盛沢山。空くじなし。抽選は午後六時に行ないます。
(三)演奏
かねこけんじとインザ・ブルーム

「保母の日」を中心として

「この「保育まつり」が、「保母の日」と共に、未永く、そして年々発展して行くために御協力下さるようお願いいたします。

保育まつりはじまる

保母のつどい

よこすか

- 県保母会体育祭 (10・29)
- 市保育大会 (11・11)
- 市保母研修会 (12・9)

おだわら

- 西湘地区施設長研修会(11・6)
- (1)障害児統合保育について
- (2)免許法案の経過と問題点

あしがらしも

- 保育施設見学会 (11・28)
- あつき
- 県央地区施設長研修会(11・13)
- 県央各市町村保母のつどい(12・9)
- 施設長・保母を一堂に集め、行政を交えて意見交換と懇親会をおこなう。

ふじさわ

- 藤沢市保育文化祭 (11・16、20)
- 第一会場(展示品)
- 各保育園児の絵画製作品

みなみあしがら

- 保母研修会 (11・25)
- 救急法の研修
- 午後懇親会

有木昭久先生

いせはら

- 公開保育、一般参観 (11・2)
- 作品展示 各園の日常生活・行事等、写真と園児作品の持ち寄り展示
- 育児相談コーナー
- 一日園長、一日保母の実施



はたの

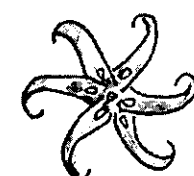
- 「保育まつり」の実行委員会を設け準備に入っている
- (1)記念式典
- (2)講演「言葉のセミナー」
- (3)保育短縮映画

かわさき

- 市保母研修会 (12・2)
- 記念講演「障害児保育について」
- 講師 中央児相浜野先生
- 「保育まつり」
- 公私私立の保育園を南部、中部、北部の三ヶ所に分け、南部は市

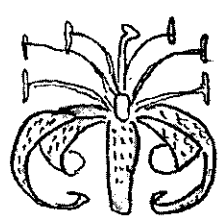
ひらつか・なか

- 保母のつどい (12・2)
- 保母の体験発表と意見交換
- 保母アトラクション



せんたい

- 県内保母養成校との意見交換懇談会(京浜女子大学) (11・29)
- 施設長研修会 (12・4、5)
- 箱根湯本ホテル
- 保育まつり保母のつどい(12・8)
- 藤沢商工会議所大ホール
- おそろいでどうぞ



保育まつりカレンダー

- 10・29 県保母会体育祭
- 11・6 西湘地区施設長研修会
- 11・11 横須賀市保育大会
- 11・13 県央地区施設長研修会
- 11・16、20 藤沢市保育文化祭
- 11・25 南足柄市保母研修会
- 11・28 湘南地区施設長研修会
- 同 足柄下郡地区保育施設見学会
- 11・29 保母養成校と意見交換懇談会
- 12・2 神奈川県保母の日
- 同 茅ヶ崎市保母研修会
- 同 平塚中部保母のつどい
- 同 伊勢原市保育まつり
- 12・4、5 施設長研修会
- 12・8 保育まつり、保母のつどい
- 12・9 横須賀市保母研修会
- 同 県央各市町村保母のつどい
- 54・2 川崎市保育まつり



昭和五十三年度上半期 神奈川県保育会事業報告

○第5回新任保母激励会

4月22日今年度新任保母二〇〇余名を集め、県社会福祉会館において開催し鶴見大学榊田先生の記念講演とパネルシアター・ハーモニカ演奏のアトラクションに、保母としての自覚と誇りを高め明日への自信と希望を与えた。

○第12回神奈川県保育事業大会

5月13日午前中関係各方面の来賓を迎え式典を挙行、午後園長部会と保母部会にわかれて研究討論し、関東ブロック保育研究大会への意見積みあげがはかられた。

○定期総会

5月13日53年度事業計画・予算案及び52年度事業・決算報告と役員改選を承認した。

○第19回関東ブロック保育研究大会

7月5、7日当番県として箱根小涌園で開催の本大会を、主催の一端をにない会の総力を挙げて運営に協力し成功に導いた。また準備段階においても役員は実行委員会の構成員となり、数次の会合に参画して準備の円滑進行をはかった。

昭和五十三年度 神奈川県保母会

○ 研修部

保育内容研究会
保母会の保育内容研究会は幼児と乳児の研究がそれぞれの課題を設定し、研究をすすめておりましたが今年度より一つの課題（保育的あそび・歩行走行から）にとりくみ年會別グループ討議とし、実践をふまえながら発達段階に応じたカリキュラムの作成にとりくんでおります。

身分法研究会

隔月に開催、研修を併せてゆきたいとの願いから、懇談会を開催。

九月十九日、田治林太郎（恵明学園々長）望月正道（小田原愛児園々長）を交えての「保育士法案をめぐって」他施設保母とのかかわり、施設長とのかかわり、保母の専門別についての話し合いがなされました。

中央保母研修会

十一月十一日、「自然と科学」と題して、辻本修（大阪保育学院講師）の講演。

○ 広報部

「やまゆり」第五号の発行（二月）各市町村において展開される「保母の日」の行事を中心に編集。

○ 体育部

十月二十九日、あいにくの天候ではあったが開催地の涙ぐましい配慮により千八百名の保母の参加により盛り上がりを見せた。



県保母会 体育祭おわる

県下の保母が一堂に集合し、親睦と健康増進を目的とした年に一度の保母同志の祭典であるこの体育祭、その価値と意義は計り知れないものであります。

毎年この大会が大会処理を任された開催地は万全への態勢作り、に会員はもとより、地元関係者の協力と支援の基盤の上になつて、構想と実現がみられることとおも



います。

十月二十九日、朝六時、小雨の空を憂慮しつつ、体育館がグラウンドかと決断する時、秒速で迫ってくる。開会への始動はグラウンドの中にいながらも現実が頭の中からスーッと遠のいていく様な錯覚も感じる緊迫感でありました。そんな状態の中からそこにいる人全員がバケツリレーをし、砂を運び不可能にしかおもわれなかった会場に

も熱気がでた。「がんばろう」と誰かが叫ぶこの一言が胸にじんとききました。

やがて開始、入場行進。おもわず行進の横にとび出し「できた、できた」と大きな声で叫んでしまひ、今にも降り出しそうな空を歓声で埋めたこの感激は忘れることができません。テントのない本部席、開会式の最中にグンブカーが砂を運んで通る、この奇異な情景も体育祭を開始することの目的の上に一齋されこの会場全員の協働と連携の成果がこの行事の意義をより深くし会場に浸透していったことと思ひます。行事を通し学んだことを明日からの保育の活力に再認識してゆきたいと思ひます。

アンケート

回収についてお願い
保育センター建設について

広く園（所）の意見を聞くためのアンケートを依頼し、11月末日を回収期限として会員各位のご協力をお願いしたところですが、まだお手許にあるときは至急県保母会事務局まで送付願ひます。

わたくし達保育者のセンター建設達成を目指して運営等への希望をあきらかにしよう。

関ブロ保育大会顛末記

新日本保育園

鈴木 栄一

去る七月五日より三日間、箱根小涌園で開かれた第14回関東ブロック保育大会は、参加人員が予定数をはるかに超えての盛会でした。県保育会をはじめ関係者が、昨年

来一年有餘に亘る綿密な準備体勢の下に、一致協力しての努力と結果の成果が、参加者の多勢の人々から好評を得ることが出来たと思います。然しこの大会の成功の蔭にも種々な苦勞話があります。

全国に福祉県として名が通っている本県が当番のこの大会には、大きな期待が寄せられていました。この期待に応えるには逼迫した社会情勢の下、経済的予算と人的配置に厳しい制限が加えられ、仲々頭の痛い大会運営でした。

そこへ思いもよらぬ参加者の超過現象が起き、開会当初から大会要覧の不足を来たし、急役職員手持ちの要覧を回収しての穴埋をする等厳しい予算でのトラブルであり、有難い悲鳴をあげる一幕でした。大会初日の歓迎陣には地元箱根町の保育園が全国をあけての協力の下

に、広大な会場案内、整理等、人波奉仕をされたり、又晩餐後のファイヤーストームには箱根登山電車の大きな枕木を暴積してのムード作り、火の神の出演(朝比奈氏)装置等々。『心のふれあい』をかもし出す温かい歓迎陣も大会を一層盛り上げる大きな成果でした。二日目には広大な敷地に散在する各分科会場での幹事、書記の方々の進行、連絡の苦心や分科会報告の処理、夕食時間をさいての速報原稿作成等、朝から晩まで休む暇のない、丸一日の重労働で本当にご苦勞様でした。速報作成にも印刷屋の見込み違いなどのトラブルがあったり、予めの予定枚数が、原稿のデコボコ等により印刷屋に分散してのタイプが困難となり、遂に真夜中の小田原市内をあちこち飛び廻る羽目となり、しまいは警察に不審視されたり、食事抜き、校正に夜を徹したり、せつかくの立派な編集部屋には、三時間余の睡眠しかとれないとは、何んと無情な箱根の険でありました。然し今にして想えば、ご同情の差し入れや、なぐり込み等楽しい思い出となりました。会長さんをはじめ皆さんもきつ

と重責を果した解放感にとっぴりとつかっていること、思います。

第19回関ブロ保育研究大会も盛會に終りほつとして。準備委を充足したのが一年前会場を箱根小涌園に決め、下見したところホテル内はまるで迷路、相当なまさされた人が多かったと思う。大会期間三日間の係員延500余名、県保育会・保母会を中心に県・箱根町・県横浜市・川崎市社協の人達で編成した混成部隊にも拘わらず一糸乱れずの活躍は見事なものだった。大会初日、予想外に当日申込が多く、資料が足らなくなるときは本当にひや汗もの。止むを得ず係員の資料を戻させ急場を凌ぐ。地元箱根町にはとくにご苦勞を頂いた。アトラクション・ファイヤーストームの準備、手づくりによる総会場の飾り付け……

田辺 忠久

幕があがり舞台の袖に立ち台本の手順通り司会者の自己紹介―私は神奈川県保育会長の(こ)こまできいて、しまった私は副会長だぞしかし、言い直すのも格好がつかないし、あ、そうだと脳裡をよぎる一瞬の智恵安部龍藏先生の指名により司会を担当いたします神奈川県保育会副会長の鈴木萬史でございます。―と続け、しめしめ先ずはうまく切抜けたを予期せぬ会長の氏名宣伝もやれたしだから俺はバカのパ、オシマイの、リコーのり、ギリと名付られたのだなと考えながら県社協の司会者用メモに目を走らせせ司会を進めました。司会者としては職権濫用?可成私見を述べて失格者でしたが大車輪で大活躍の保母会の方々頼み難かつたので会場の呼出係や遺失物の御案内迄第一日目と最終日は立ちん坊ですごし、夜は夜と戦争の避難民的フォークダンスで運動神経皆無と笑いの種、深夜は酒精分過多の大論議で翌朝近くの就寝でした。

大会第二日は特別分科会の助言者勤務、県保育会きつての論客の生野隆彦園長が議長の人、幹事はかの有名な火の神(ハナマツテヘノカミトヨシデハバチガアタリマズ)朝比奈秀行園長ですから安心してよいのか恐れ萎縮させられるのか、午前中はアクビを隠す為扇子の使用何十回かにおよびおまけに暑い日で冷房を入れると後の吹出口附近の人々が止めてしまし難行苦行の一日でした。晩は速報編集委員会に押しかけ鈴木栄一副会長(父親級の大元老)や坊ちゃん然としているが私の大先輩の富田英雄庶務委員等々の面々が速報原稿の取まとと整理それにもまして印刷屋のサボタージュに苦悶奮闘悲愴感溢れる活躍ぶりを口の外野スタンドでの観戦に終り、これだけ誰かが過勞で倒れたら参会者には宗教家が多いので諸宗教諸宗派合同減多に拝めぬ豪勢な盛儀?と相成は必定と不謹慎な妄想もおこる始末、ともあれ速報も立派に出まして、最終日は舞台の袖やら下手やらにあつて最後の締めくりも無事に終了しました。いろいろなき事がありましたが私の偶感のごく一部を綴る悪文をお読みいただき多謝感激しております。さようなら来年は新潟で!

いだ熱情は、参加者に強い印象を残したことと思う。処理委員会の席上で涙にむせびながら挨拶された安部会長。その涙は県下保育園者の努力に対する感謝の気持ちが集約されたものと私は感じた。

鈴木 萬史

幕があがり舞台の袖に立ち台本の手順通り司会者の自己紹介―私は神奈川県保育会長の(こ)こまできいて、しまった私は副会長だぞしかし、言い直すのも格好がつかないし、あ、そうだと脳裡をよぎる一瞬の智恵安部龍藏先生の指名により司会を担当いたします神奈川県保育会副会長の鈴木萬史でございます。―と続け、しめしめ先ずはうまく切抜けたを予期せぬ会長の氏名宣伝もやれたしだから俺はバカのパ、オシマイの、リコーのり、ギリと名付られたのだなと考えながら県社協の司会者用メモに目を走らせせ司会を進めました。司会者としては職権濫用?可成私見を述べて失格者でしたが大車輪で大活躍の保母会の方々頼み難かつたので会場の呼出係や遺失物の御案内迄第一日目と最終日は立ちん坊ですごし、夜は夜と戦争の避難民的フォークダンスで運動神経皆無と笑いの種、深夜は酒精分過多の大論議で翌朝近くの就寝でした。

最終日総会場で「ご苦勞様でお掃りを」声をかけあつて見送つた保母会の人達の姿……

県内保育関係者がこの大会へ注

おめでとう

いよいよ

湘南地区行政センター東民部課長 岩本英俊(児童課々長代理)
▽横浜(七月二十五日付)
保育第二課指導係長

▽昭和五十二年以降社会福祉事業 関係において大臣表彰以上の栄 誉を受けられた方々

- 勲五等双光旭日章 池田六郎殿
富水保育園々長
勲五等瑞宝章 上和田保育園々長 大地兼香殿
厚生大臣表彰 山王保育園々長 都築誠真殿

- 白百合保育園々長 小西時太郎殿
みゆき愛児園々長 佐藤君子殿
聖徳保育園々長 菱川 馨殿
霞台保育園々長 千葉美江子殿
杉田幼児園々長 三浦 豊殿
岩愛児園保母 和泉照子殿
新日本保育園保母 外崎よ子殿

保育園関係行政等職員

人事異動

- ▽神奈川県(七月一六日付)
民生部児童課長
橋爪滝三郎(税務課々長代理)
同 児童課々長補佐
内田和男(横浜地区行政センタ
ー係長)
ひばりが丘学園長
横小路正一(児童課長)

▽鎌倉市
鎌倉市助役 磯田正一(社会福祉部長)
社会福祉部長(十一月一日付)
清水芳明(企画調整室長)

▽二冥福を祈ります

大芝桑雄氏(前衣笠保育園々長)
昭和五三年五月一〇日逝去
山本茂雄氏(前板橋光明保育園
長)

昭和五三年九月二五日逝去



あじむがき

した顔、顔、顔」の凶柄です。こ
の夢が実現する可能性はないもの
でしょうか。

昨年の「保母の日」は、本紙で
数多くの保母が出席できるように
お願いをしました。施設長諸氏の
絶大な御努力と養成校の協力によ
つて、会場はあふれ、立ち見すら
できずに、廊下に立っている人が
沢山いました。その様子を見て、
会長はじめ、保育会の役員達は、
それこそ、涙を流して、諸氏のお
力添えに感謝し、「よし、来年は県
民ホールを埋めつくそう」と力み
ましたが、間もなくわかつた県民
ホールのスケジュールには、非情
にも、「スプリングクラターの設備のた
めに休館」とありました。

保育会の安部会長は、会長就任
の時から、施設長・全従事者・保
護者総ぐるみの祭典「保育まつり」
の実現が夢でしたが、去年の「保
母の日」制定のときには、競合に
なるのをさけて、「保育まつり」の
実施を遠慮しました。しかし、今
年は「保育まつりカレンダー」と
題したスケジュールでおわかりの
ように、「保母の日」を中心に、そ
の前後に各種行事をならべること
によつて「保育まつり」を実施す
ることができました。これに呼応
して、各地区でも、「保育まつり」
や「保母の日」がもたれることにな
ったことは、御同慶の至りです。

だねることにした。
二年目の「保母の日」を迎えて、
今年は「保育まつり」で更に保母
さんの親睦、交流など盛りされるこ
ととなった。
幼い子ども達が一人歩き出来る様
明日への道しるべとなって益々元
気に明るく前進してほしい。
(鈴木栄一)

筆者紹介

本誌3頁所載筆者関先生は照明
学の権威者であり、東北帝大ほか
数多くの大学教授・講師の教職を
歴任し、86才の高令の今なお現職
第一線で活躍中である。

- 大9・7 東京帝大工学部卒
同 東芝電気納入社|昭21退社
同 昭25・12 工学博士
同 昭30・11 神奈川県文化賞受賞
同 昭32・4 小田原女子短期大学教授
同 昭38・4 日本電子工学院院长(現任中)
同 昭45・11 勲3等叙勲
同 昭52・9 小田原女子短期大学々長

編集委員

是非県民ホールを満員にしようで
はありませんが、本臨時号の編集
にあたって、しきりに見る夢は、
「県民ホールでの、保母の日の集
い、保母賞贈呈式に続いて行なわ
れるジョイント・コンサートで、
ベーターベンの交響曲「第九」の
大合唱に酔いしれる保母達の紅潮

- 鈴木栄一
富田英雄
鈴木範雄
安部龍藏
鈴木萬吏
北村桂子